

福祉サービス第三者評価結果（総括表）

① 第三者評価機関名

株式会社評価基準研究所

② 施設・事業所情報

名称：心羽ナーサリー高場	種別：企業主導型保育施設
代表者氏名：横川 みゆき	定員（利用人数）：29名
所在地：茨城県ひたちなか市高場1250-1	
TEL：029-212-3400	ホームページ：http://seishin.biz/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：平成30年4月	
経営法人・設置法人（法人名等）：社会福祉法人 清心福祉会	
職員数	常勤職員：4名 非常勤職員：5名
専門職員	保育士：7名 事務員：1名 看護師：1名
施設・設備の概要	居室 保育室：3、職員室：1、地域交流室：1 設備 調理室：1、沐浴室：1、調乳室：1、更衣室：1、ホール：1 トイレ：4、足洗場：2

③ 理念・基本方針

- | |
|---|
| <p>1) 経営理念：法人としての基本的な方向性・価値観を明確化し、日々の保育・運営の判断基準として活用。</p> <p>2) VISION・MISSION・PASSION・ACTION ステートメント：経営理念の実現に向けた具体的な指針、職員の行動や保育方針に反映。</p> <p>3) スローガン：「子どもの成長の機会」を大切にし、職員や保護者に分かりやすく親しみやすい形で理念を共有。</p> <p>4) 中長期保育テーマ・中長期職員テーマ：5年ごとの見直しを通じ、子どもの成長を育む保育方針や職員育成方針を定め、理念と現場を連動。</p> <p>5) 年度ごとの保育テーマ・職員テーマ・三大重点項目：中長期テーマを達成するために単年度でテーマを設定。</p> |
|---|

④ 施設・事業所の特徴的な取組

<p>【理念を構造化し現場実践へ接続する組織マネジメントを展開している】</p> <p>本園は、経営理念とVISION・MISSION・PASSION・ACTIONを起点に中長期テーマ、単年度テーマ、三大重点項目へと段階的に落とし込み、保育実践と組織運営を一体的に推進している点が特徴である。各種会議体を通じて職員が参画し、計画の策定から振り返りまでを組織的に行うことで、理念が日常の保育に具体的に反映されている。さらに、意思決定の過程や背景を共有する仕組みが整えられており、職員が主体的に考え行動できる土台が形成されている。</p>
--

こうした構造化されたマネジメントにより、組織として自律的に改善を続ける運営が実現している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和7年9月1日（契約日）～ 令和8年3月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（令和2年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

【理念を基盤に職員が主体的に運営へ参画する自走型組織が形成されている】

本園では理念を基盤に、職員が主体的に保育や運営の改善へ関わる「自走型組織」が形成されている。会議体や情報共有を通じて、現場の気づきや課題を組織として検討し改善へつなげる仕組みが機能しており、職員一人ひとりが自ら考え行動する組織文化が育まれている。こうした取組は法人及び本園の組織マネジメントの強みであり特徴である。一方で、比較的コンパクトな組織規模で運営されていることから、連携や役割分担には工夫も求められる。今後も取組を基盤に対話と振り返りを重ねることで、本園の強みが継続して発揮されていくことを期待したい。

【地域の自然環境を活かした保育環境が子どもの感性を育てている】

園の周辺には自然環境が広がり、四季の変化を感じながら生活できる環境が整えられている。園外の樹木や植栽は、風に揺れる葉の音や香り、時間の経過によって変化する光や影など、子どもの五感を刺激する素材として活用されている。また園舎内は自然光を取り入れた明るい空間となっており、保育室同士が見渡せる配置により職員間の連携が図りやすい構造となっている。さらに、日常の保育の中での職員の気づきをもとに、子どもが落ち着いて過ごせる小さな空間を設けるなど、子どもの気持ちに寄り添った環境づくりが行われている点も評価できる。

【遊びや生活にメリハリを持たせた保育の中で健やかな心身を育てている】

本園は0～2歳児を対象とした保育園であり、保育士が子ども一人ひとりの発達や個性に寄り添いながら保育を行っている。遊びと生活にメリハリを持たせた関わりを通して、心身の調和や自立心、協調性、探究心を育むことを大切にしている。園の特色である教育プログラムでは、子どもが興味を持って取り組める活動が用意され、1歳児と2歳児が合同で参加することで互いに刺激を受けて取り組んでいる。陽当たりの良い園庭では固定遊具や玩具を活用した身体活動と静かな遊びがバランスよく行われ、保育者は適度な距離で見守りながら主体性を大切にしている。

◇改善を求められる点

【0～2歳児の発達を踏まえた遊びの環境構成のさらなる充実が求められる】

子どもの発達や個人差に応じた保育を実践し、きめ細やかな目配りとその子に合った言葉かけを大切にしている様子が確認できた。一方で、保育室内の遊び環境については、子どもが主体的に玩具や素材に触れながら探索できる環境構成について、さらに工夫を重ねる余地があると考えられる。0～2歳児は様々な物を見て触れ、感じながら探索すること自体が学びとなる時期である。今後、発達段階を踏まえた遊びの環境をより検討していくことで、子どもの遊びがさらに深まり広がり、主体的な活動がより豊かになることが期待される。

【発達や活動の流れを踏まえ子どもの待つ時間への配慮を深めていくことが望まれる】

それぞれの活動については子どもが集中して取り組めるよう丁寧な提示が行われており、保育の意図を大切にしたり関わりが見られる。一方で、活動の進行の中で子どもが待つ場面も見受けられた。低年齢児にとって待つ時間が長くなることは集中の持続や主体的な遊びの展開に影響する可能性もあるため、活動の動線や保育の流れ、玩具の配置などを含めた環境構成の視点から改めて整理していくことが望まれる。子どもが自ら選び遊びを展開できる時間や空間をより確保することで、主体的な活動がさらに広がり、保育の質の向上にもつながることが期待される。

【互いの役割理解を深め、安心して保育に向き合える職場環境の充実を期待する】

小規模保育園の特性を生かし、職員同士が互いの役割を理解しながら保育を進めている。こうした連携は保育環境をより豊かなものとし、職員が安心して保育に向き合える職場環境の形成にもつながると考えられる。また、職員同士が互いの状況に目を向け、必要に応じて助け合い支え合う姿勢は、子どもたちの安定した生活や安心感にも結びつく。今後はこうした関係性を基盤として、職員同士の連携や対話・振り返りを通じて相互理解をさらに深めていくことで、チームとしての保育実践がより充実し、組織としての保育の質の安定にもつながることが期待される。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を通じて、特に保育室の環境構成について多くのご指摘・ご助言をいただいたことを重く受け止めております。子どもが自ら選択し主体的に活動できる環境、そして「やってみたい」という意欲を引き出すための環境構成は、子どもの主体性を育む上での基盤であり、今後最も注力すべき重要課題であると認識いたしました。

また、0歳から2歳までの保育の重要性についても改めて認識を深めております。この時期における丁寧な関わりや環境の在り方が、その後の育ちに大きく影響することを踏まえ、年齢や発達に応じたデイリープログラムの在り方を見直しながら、一人ひとりの発達に即した保育環境の整備を進めてまいります。

今後は、「主体性」とは何かという基本的な視点について職員間で共通理解を図るとともに、子どもが自ら選び、試し、考え、表現できる環境構成及び保育者の関わり方について、継続的に検討・改善を重ねてまいります。また、日々の保育の振り返りを通じて、保育者の関わりが子どもの姿にどのような影響を与えているかを検証し、必要に応じて柔軟に見直すことで、保育の質の向上につなげてまいります。

さらに、職員が安心して働ける職場環境の整備についても重要な経営課題として認識しております。職員一人ひとりの強みを生かしながらチームとしての連携力を高めることで、安定した保育の提供及び子どもたちの安心につなげていけるよう、マネジメントの充実を図ってまいります。

一方で、子ども一人ひとりの思いや気持ち、表現を大切にしたり関わりや、安心して過ごせる環境づくりに取り組んできた点について評価をいただいたことは、本園の保育の基盤として今後も大切にしていきたいと思います。

今後も、子ども一人ひとりの内にある「ときめきの種」が自然に芽生え、広がっていく環境づくりを目指し、いただいたご意見を真摯に受け止めながら、継続的な改善を積み重ね、保育の質のさらなる向上に努めてまいります。

⑧評価細目の第三者評価結果（別紙）

評価細目の第三者評価結果（個票）

※評価細目について、判断基準に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念，基本方針が確立・周知されている。		
評価細目	評価結果	コメント
I-1-(1) ① 法人や施設（事業所）の理念が明文化されている。	a b c	

I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
評価細目	評価結果	コメント
I-2-(1) ① 事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a b c	
I-2-(1) ② 経営課題を明確にし，具体的な取り組みを進めている。	a b c	

～以下，評価基準に沿って評価細目毎に公表